

「竹あかり」による 足利まちなかにぎわい創出

中間報告

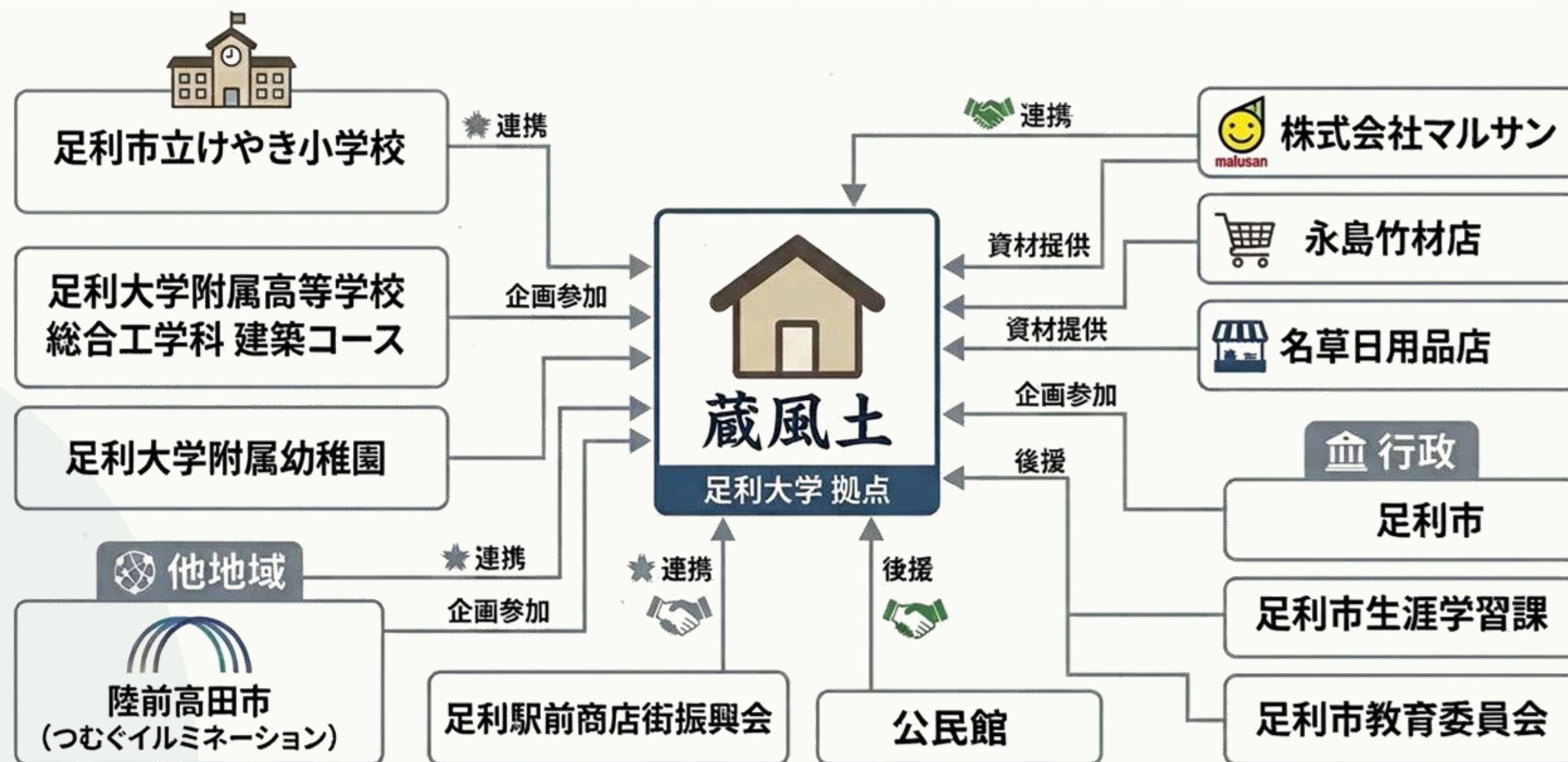
申請大学：足利大学
活動地域：栃木県足利市



12年目の
取り組み

「竹あかり」を一つの糸口に、交わる一年にする活動です。

多世代の交差点。



行政・教育・民間・他地域の4領域で、足利のまちなかと学生の取り組みを結んでいます。

迎えた転換の年。

拠点「蔵風土」の内部整備はおおむね完了。今年はそこから一步踏み出し、イベントでの一過性の利用から、**日常的な滞在を生む場所**へと移行します。

PHASE 01

拠点整備

～ 昨年まで

「蔵風土」を中心に内部整備を進め、竹チップブロックやスマートロックなど、技術的な成果を蓄積してきた段階。

PHASE 02

社会実装への展開

今年度の前半

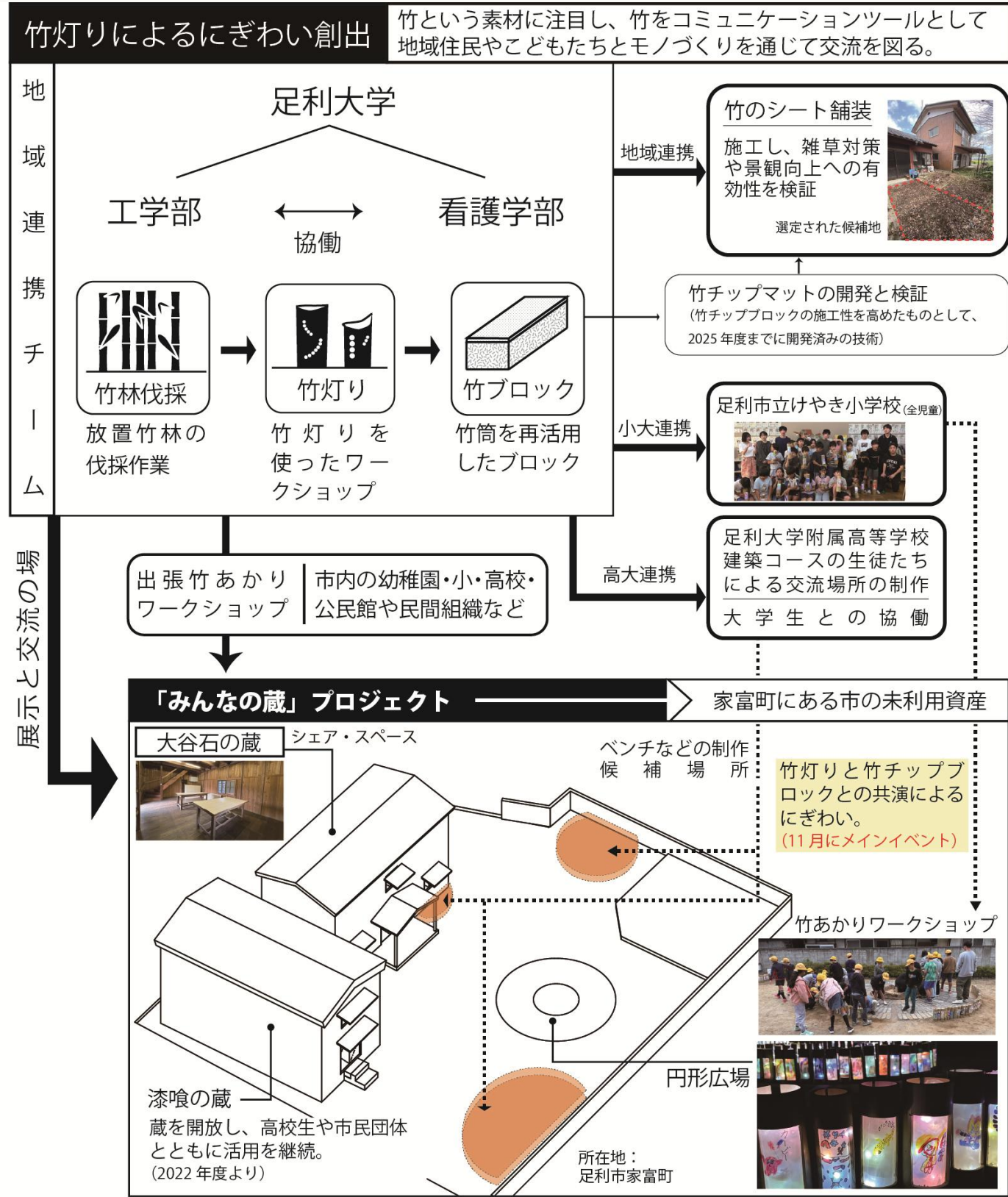
蓄積してきた成果を、地域事業者や小学校・高校に開き、4つの新規プロジェクトを試験的に走らせる段階。

PHASE 03

日常的な交流拠点へ

後半に向けて

11月の前庭披露イベントを節目に、「蔵風土」と前庭が一体となった日常的な滞在を生む交流拠点の完成へ。



新規4つ + 継続5つ — 9つの柱

新規4プロジェクト

01 / 高大連携

前庭整備 ～ 交流空間の構築

02 / 社会実装

竹素材を使った竹チップマット舗装

03 / 多世代教育

小学生対象の
竹あかり教育プログラム

04 / 地域交流

地域住民と
足利の未来を考える勉強会
～JR足利駅前商店街と協働

継続5つの活動

出張竹あかり WS

地域住民との交流

スマートロック運用

空き蔵の一般開放と検証

竹林管理

伐採と管理体制の維持・改善

SNS 広報

フォロワー数 前年度比 +10% 目標

意見交換

市長・行政・団体との対話

05 — 新規プロジェクト①

高大連携による前庭整備

「蔵風土」の前庭を 交流空間に整える

足利大学附属高等学校 総合工学科 建築コースの生徒と大学生が協働。
6月からのワークショップで計画を立案し、11月の竹あかりイベントまでに
ベンチを設置。「日常的に滞在できる前庭」をめざします。



高校生が研究室を訪問・打ち合わせ



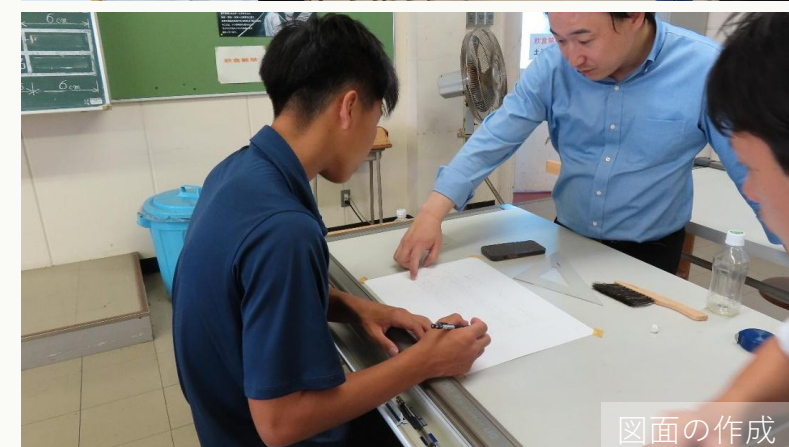
木材寸法のチェック



大学生と計画案を立案



木材の加工と組み立て



図面の作成



モックアップ製作

1

6月～
WS 開催
設計案づくり

2

7月初旬
整備計画立案
職人協力のもと安全性配慮

3

7月中旬～10月下旬
ベンチ制作と現場整備
ベンチと現場の設置地面の整備

4

11月
お披露目
イベントで初披露

06 — 新規プロジェクト②

竹素材のシート舗装による社会実装

技術を、地域の足元に届ける。

ねらい

放置竹林問題の解決

施工性を高めた「竹チップマット」を地域で実用化

検証の観点

雑草対策 × 景観 × 耐久性

耐候性・防草効果・景観影響などを測定

役割

地域事業者と協働

候補地に施工し、サンプル回収と写真記録まで学生主導

目標

年1件^{以上}

地域事業者からの依頼に基づく実証施工

モニタリング

1年^{がかり}

学生による定期確認とデータ化



10 — 新規プロジェクト③

小学生対象の竹活用教育プログラム 足利市立けやき小学校 全児童

全児童が、竹あかりを 自分の手でつくりました。

9月－10月

今年の拡張

足利市立けやき小学校 全児童

昨年度の1・4年生対象から、全児童へ拡大

大学生の役割

技術・教育・安全管理を兼ねた教材を考案・進行。
小中学生にも配慮しながら進めました。

児童の「竹あかり」は11月イベントで「蔵風土」前庭に展示

多世代連携

小学生 × 高校生 × 大学生

前庭の展示空間に児童の竹あかりと高校生のベンチを統合



大学生が見守ります



完成したので記念撮影

地域交流 足利の未来を考える

未来を考える 市民勉強会

JR足利駅前商店会振興会の皆さんと共同勉強会

「みんなで歩いて、みんなで語る、JR足利駅前のこれから」を開催。
今のまちの様子を知り、未来を考えるワークショップ

今年の拡張

地域住民とのまちのビジョンを描く

学生を主体とした地域住民との交流

専門性を生かした提案

地域課題 × まちづくり活動

具体的な敷地で、地域住民と具体的な提案書をつくる試み

これまでの経験を生かす

大学の専門性をまちづくりに生かす

具体的な敷地を用いて、具体的な提案してみる

6月・11月



地域住民と共にまち歩き



見てきたまちについて語りました

4 つの新規と、継続の 5 つ。

01 / 交流

出張竹あかり WS

公民館・小学校へ向けた出張ワークショップを通じて、地域住民と継続的に交流する。

02 / 拠点運用

スマートロック活用

空き蔵「蔵風土」の一般開放運用とその効果検証を引き続き実施。

03 / 資源

竹林の管理

竹の伐採を通じて、放置竹林の状況を把握し、管理体制の維持・改善。

04 / 広報

SNS 等を通じた地域交流広報

認知度向上と情報発信力の強化。
フォロワー数は前年度比 +10% を目標とする。

05 / 対話

足利市長・行政・団体との意見交換

昨年度の実績に基づき、定期的な意見交換を継続。
官民連携の強化と社会実装の確実な前進をねらう。

9つの活動は、3つの軸で交わる

3軸＝「世代」 × 「場所」 × 「テーマ」。各活動が少なくとも2つの軸をまたぎます。

軸 01

世代

小学生・高校生・大学生・地域
4主体が会う構成。

● 児童教育

● 高大連携

● 地域連携

● 出張WS／意見交換

軸 02

場所

「蔵風土」と前庭を中心に
足利の家富町周辺へ波及。

● 蔵風土の運用

● 前庭整備

● スマートロック開放

軸 03

テーマ

竹あかり × 放置竹林 × まちなか
にぎわいの3つの主題を扱う。

● 竹あかり制作体験

● 竹チップ実装

● SNS 広報／竹林管理

6月～3月の10か月、 11月を節目に山場を築く

活動	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高大連携・前庭										
地域連携										
児童教育										
継続・出張WS										
広報・意見交換										

※ 11月の「竹あかり展示イベント」は年間の山場。前庭完成と竹あかり展示を一体で開催し、地域報告会と同日実施。

12 — 11月 節目

11月13日から23日、
「蔵風土」で子どもたちの作品を展示します。

11/13

— 11 / 23 蔵風土にて

園児と児童の
竹あかりを一斉展示。

高大連携で生まれたベンチ、
小学生一人ひとりの竹あかりが前庭に並びます。



去年の竹ならべの様子

去年の様子



夜になると地域の方々が集まります

追記用 / テキスト主体・写真 1 枠

継続・広報・連携の動き

5 月～10 月に走らせた、5 つの継続活動の現状。テキストで要点を残し、印象的な 1 枚だけ写真で残します。

01

出張 WS

5 月以降、市内・市外で
竹あかり制作を継続。

02

蔵風土の運用

スマートロックによる
空き蔵の一般開放開発を継続。

03

竹林の管理

竹の伐採・管理体制を
維持・改善。
(永島竹材店との連携)

04

SNS 広報と意見交換

情報発信力を強化し、フォロワー数は前年度比 +10% を目標に。行政・地域団体との意見交換を定期的に続け、
官民連携のもとで事業を前進させました。



ディンプルアートと竹あかり

名草公民館 放課後こども教室『ディンプルアート＆竹あかりづくり』

#_chiikirenkei_

4月以降の足跡、まとめました。



展示作業

自分のあかりは、自分で並べる。

展示作業は大学生でも高校生でもなく、**小学生が自分で**前庭に並べます。
並べ方はそれぞれ — 各クラスのあかりが、自分の思う場所に置かれます。



昨年の様子（竹ならべ）

ねらい

主役は子ども

展示も子どもの判断で進められるよう、
大学生は伴走役に徹します。

並べ方

それぞれの判断

隣との距離、向き、組み合わせ。
それぞれのあかりが前庭に落ち着きます。

対話生まれる

場面を、少し立ち止まる

並べながら、クラスメイトと話す。
展示そのものが学びになります。

11月13日 — 23日の展示は、見るためだけの場ではありません。
子どもたちが並び、観、大人と話す。その時間全体が、この活動のねらいの一つです。

15 — 11月 展示

「蔵風土」での展示 — 11 日間

幼稚園児と小学生のあかりを、高校生のベンチと並べて、前庭に並べます。



過去の展示の様子

展示期間

11/13 ~ 11/23

11 日間 / 会場：蔵風土 / 足利市家富町

展示されるもの

附属高校 建築コースによるベンチ、
けやき小学校・名草小学校・足利大学附属幼稚園の竹あかり、
大学生による装飾が一同に会します。

「竹あかり」による 足利まちなかにぎわい創出

中間報告

申請大学：足利大学
活動地域：栃木県足利市



12年目の
取り組み